

令和6年度全国学力・学習状況調査の結果について

岩国市教育委員会

1 調査の目的

(1) 目的

義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、

- 全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析することによって、国や全ての教育委員会における教育施策の成果と課題を分析し、その改善を図る。
- 学校における個々の児童生徒への教育指導や学習状況の改善・充実等に役立てる。
- そのような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。

(2) 調査期日 令和6年4月18日(木)

(3) 調査を実施した学校・児童生徒数

学年	学校数	児童生徒数
小学校第6学年	岩国市立小学校 28校	948人
中学校第3学年	岩国市立中学校 14校	879人

(4) 調査の内容

①教科に関する調査

【小学校：国語14問、算数16問】

【中学校：国語15問、数学16問】

- ・学習指導要領で育成を目指す、知識及び技能や思考力、判断力、表現力等を問う問題を出題。
- ・各大問において「主体的・対話的で深い学び」の視点からの授業改善のメッセージを発信。

②今年度の調査の特徴

- ・児童生徒質問調査について、全面的にオンラインによる回答方式で実施。

2 結果の概要

(1) 教科に関する結果

①平均正答率

- 小学校(6年生)

	国語	算数
岩国市	68	62
全国	67.7	63.4
山口県	68	64

○ 中学校（３年生）

	国語	数学
岩国市	５６	４８
全 国	５８．１	５２．５
山口県	５８	５２

②全体の結果

○ 全国平均との比較（平均正答率）

【小学校】国語は同程度、算数は下回っている。

【中学校】国語、数学とも下回っている。

③教科ごとの結果

ア 小学校 国語

【相当数の児童ができている点】

- 送り仮名に注意して、漢字を文の中で正しく使う。
- 情報と情報との関連づけの仕方、図などによる語句と語句との関係の表し方を理解して使う。
- 目的や意図に応じて、集めた材料を分類したり関係付けたりして、伝えたいことを明確にする。

【課題のある点】

- 漢字を文の中で正しく使う。（競技）
- 資料を活用するなどして、自分の考えが伝わるように表現を工夫する。
- 目的や意図に応じて、事実と感想、意見とを区別して書くなど、自分の考えが伝わるように書き表し方を工夫する。

イ 小学校 算数

【相当数の児童ができている点】

- 数量の関係を、□を用いた式に表す。
- 直方体の見取り図について理解してかく。
- 円グラフの特徴を理解して割合を読み取る。

【課題のある点】

- 道のりが等しい場合の速さについて、時間を基に判断し、その理由を言葉や数を用いて記述する。
- 球の直径の長さと立方体の一辺の長さの関係を捉え、立方体の体積の求め方を式に表す。
- 折れ線グラフから必要な数値を読み取り、条件に当てはまることを言葉と数を用いて記述する。

ウ 中学校 国語

【相当数の生徒ができている点】

- 行書の特徴を理解する。
- 目的に応じて、集めた材料を整理し、伝えたいことを明確にする。

- 具体と抽象など、情報と情報との関係について理解する。

【課題のある点】

- 文章と図とを結びつけ、その関係を踏まえて内容を解釈する。
- 目的に応じて必要な情報に着目して要約する。
- 自分の考えが伝わる文章になるように工夫する。

エ 中学校 数学

【相当数の生徒ができている点】

- 正の数と負の数の加法の計算をする。
- グラフの傾きや交点の意味、 y 軸との交点等について、事象に即して解釈する。

【課題のある点】

- 事象を数学的に解釈し、問題解決の方法を数学的に説明する。
- 筋道を立てて証明する。
- 事象を角の大きさに着目して観察し、問題解決の過程や結果を振り返り、新たな性質を見いだす。

(2) 生活習慣や学習環境等に関する結果

①児童生徒に対する調査

【望ましい状況】

ア 子どもたちの生活習慣

- 「朝食を毎日食べる」「毎日同じくらいの時刻に寝る・起きる」という規則正しい生活を送っている児童生徒の割合は高い。この結果に比例し、規則正しい生活を送っている児童生徒の教科に関する調査問題の正答率も高くなっている。

イ 子どもたちの意識

- 「自分にはよいところがあると思う」「先生は、よいところを認めてくれている」「先生は、授業やテストで間違えたところや、理解していないところについて、分かるまで教えてくれる」と回答した児童生徒の割合が高く、教師の学習面、生活面に対する適切な接し方により自己肯定感の高まりがみられると考えられる。
- 「人が困っているときに進んで助ける」「人の役に立つ人間になりたい」と回答した児童の割合も高く、規範意識が身に付いているともいえる。

ウ 学習

- 「分からないことや詳しく知りたいことがあったときに、自分で学び方を考え、工夫することができている」「授業では、課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組んでいる」「学習した内容について、分かった点やよく分からなかった点を見直し、次の学習につなげることができている」と回答した児童生徒の割合が前回調査より高くなっており、授業で主体的に考えたり、自己の学びを調整したりしようとしている姿勢が身に付いてきているといえる。
- 「国語や算数・数学の勉強は大切だと思う」「国語や算数・数学の授業で学習したことは、将来、社会に出たときに役立つと思う」と回答した児童生徒の割合が、全国平均、県平均を上回っている。

エ 地域との関わり

- 「地域や社会をよくするために何かしてみたいと思う」と回答した児童生徒の割合は、前回調査より高くなっている。

【課題とみられる状況】

ア 家庭での学習習慣

- 1日当たりの勉強時間が全国平均、県平均と比べて短く、それに伴い、特に中学校において、テレビゲーム、動画視聴を行う時間が長い生徒の割合が高くなっている。また、小学校、中学校ともに、テレビゲーム、動画視聴の時間が長いほど、教科に関する調査問題の正答率は低くなっている。

イ 学習

- 「自分の考えを発表する機会では、自分の考えがうまく伝わるよう、資料や文章、話の組み立てなどを工夫して発表している」と回答した児童生徒の割合が、全国平均、県平均を下回っている。

ウ 社会的事象への関心

- 「新聞をほとんど読まない、または全く読まない」と回答した児童生徒の割合は、前回調査より高くなっている。この結果に比例し、新聞をほとんど読まない、または全く読まない児童生徒の調査問題の正答率は低くなっている。

エ 地域との関わり

- 中学校では「地域や社会をよりよくするために何かしてみたいと思う」と回答した生徒の割合が、全国平均、県平均を下回っている。

②学校に対する調査

【望ましい状況】

ア 学習指導

- 「児童生徒がそれぞれのよさを生かしながら、他者と情報交換して話し合ったり、異なる視点から考えたり、協力し合ったりできるように学習課題や活動を工夫している」「習得・活用及び探求の学習過程を見通した指導方法の改善及び工夫をしている」と回答した学校の割合は、全国平均、県平均より上回っている。
- 「授業において、児童生徒自ら学級やグループで課題を設定し、その解決に向けて話し合い、まとめ、表現するなどの学習活動を取り入れている」と回答した学校の割合も、全国平均より上回っている。

イ 小中一貫教育

- 中学校区で教育課程の接続や教科に関する共通の目標設定等、教育課程に関する共通の取組を行っている割合は全国平均、県平均と比べて高い。

ウ 家庭や地域との連携

- 「コミュニティ・スクールや地域学校協働活動等の取組によって、学校と地域や保護者の相互理解は深まっている」と回答した学校の割合が、全国平均より、また昨年度より上回っている。

【課題とみられる状況】

ア 学習指導

- 「児童生徒一人一人に配備された PC・タブレットなどの ICT 機器を、授業でどの程度活用しているか」に対する回答において、学校の認識と児童生徒の認識に差がある。

3 今後の取組

(1) 年2回の検証改善サイクルの確立

①結果の把握と分析に基づいた指導の工夫改善

- ア 成果からみたよい取組の価値付け
- イ 誤答分析による児童生徒の思考の分析と指導方法の改善

②全学年、全教科等を対象とした課題改善に向けた計画的な取組

- ア 学力向上プランへの反映
- イ 学校全体での取組の焦点化
- ウ 個に応じた学習指導の改善・充実等
- エ 学力低位層の児童生徒への支援の充実

(2) 授業改善

①校内研修、一人一授業公開の実施

- ア 「岩国市授業スタンダード」に則った授業の実施
- イ 1人1台端末の積極的な活用
- ウ 自分の考えを的確に伝えるための、表現の工夫の仕方を考える場の設定
- エ 「引き出したい振り返り」からの授業づくり

②学力向上担当・研修主任会における成果と課題の共有

- ア 各学校における全校体制での取組、課題、方策の共有
- イ 授業づくりや ICT 活用の好事例の紹介 (Teams 等)

③若手教員に向けた自主研修会の開催

- ア ミドルリーダー等を講師とした研修会の実施
- イ Teams 等を活用した情報交換

(3) 地域との連携した取組の推進

①小中一貫教育の更なる推進

- ア 中学校区でのめざす子供像、学校課題等の共有
- イ 合同授業研究会、合同研修会の実施
- ウ 「子供」を主語にした交流活動等の実践

②学校・地域・家庭の更なる連携

- ア 「学校地域連携カリキュラム」の実践と見直し
- イ 児童生徒の熟議への参加と地域貢献の視点
- ウ 持続可能な取組の模索